

姉妹都市バス市との絆深める

米国メイン州バス市訪問団派遣交流

姉妹都市米国メイン州バス市への訪問団が8月5日から8月17日まで13日間の日程で友好親善に努めてきました。今年は中学生3人、高校生2人、大人1人計6人の団員がホームステイやさまざまな交流プログラムを通して異国の文化について理解を深めました。

6月にバス市から東日本大震災の義援金が青森県に寄せられたことを受け、一行はバス市長や関係者に礼状を渡し、感謝の意を伝えました。今由紀子団長は「多くの方から震災を気遣う言葉を掛けていただきありがたかった」と振り返りました。

最初は不安を抱えていた団員も、ホストファミリーとの生活を重ねるごとにコミュニケーションも進み、家族の一員として打ち解け、両市の友好の架け橋として大きな役割を果たしました。



大西洋をバックにホストファミリーらと記念撮影



バス市の図書館で子どもたちに習字を教えて文化交流



メイン州ポール・レページ知事（後列中央）を表敬訪問。
右から3人目が知事夫人



恒例の記念植樹



バス市ワイマン市長(左から2人目)を表敬訪問



YMCAで子どもたちと折り紙（かぶと）を作る

平成23年度派遣日程

月日	内容
8.5 (金)	青森空港→成田空港 成田空港→ニューヨーク
8.6 (土)	ニューヨーク見学→ポートランド→バス市ホストファミリー宅へホームステイ
8.7 (日)	ホームステイ2日目 (ホストファミリーデー)
8.8 (月)	ホームステイ3日目 (バス市長表敬訪問、折り紙交流、博物館見学、ウエルカムパーティ)
8.9 (火)	ホームステイ4日目 (高校生による造船プロジェクト見学、ポッパムビーチ、折り紙・習字交流)
8.10 (水)	ホームステイ5日目 (州知事表敬訪問、州議会議事堂見学、ブルーベリー料理体験)
8.11 (木)	ホームステイ6日目 (ショッピング体験、ポートランド市内・灯台見学、野球観戦)
8.12 (金)	ホームステイ7日目 (ボードイン大学美術館見学、ミュージカル鑑賞)
8.13 (土)	ホームステイ8日目 ホストファミリーデー
8.14 (日)	ホームステイ9日目 ホストファミリーデー
8.15 (月)	ホームステイ10日目 (カヤック体験、チェスボロースイム、記念植樹、習字交流、さよならパーティ)
8.16 (火)	バス市→ポートランド→ニューヨーク→成田空港
8.17 (水)	成田空港→青森空港



初めてのカヤック体験にドキドキ



ポートランド灯台



メイン州最大の都市ポートランド。歴史的な建物が並ぶ街を散策



東日本大震災の義援金の贈呈セレモニー



ボードイン大学



メイン州といえば
ロブスター



ホストの皆さんありがとう! (さよならパーティにて)

バス市との国際交流に参加しませんか



市では、異なる文化を理解し合い、国際社会に対応できる人材育成を図るため、毎年夏につがる市姉妹都市国際交流事業を実施しています。平成2年から旧車力村で始まった相互訪問には延べ537人がバス市を訪問し、バス市から303人がつがる市に訪れています。異文化を肌で感じ、バス市との国際交流に参加してみませんか。

時期：平成24年8月上旬～中旬（予定）

対象：中学校2年生以上のつがる市民

詳細については平成24年4月頃広報紙等によりお知らせする予定です。

「最高の誕生日」

坂田 篤哉



ホストファミリーと出会ったときは緊張しましたが、家族のように接してくれるので、とても気が楽でした。家の周りを散歩した時に僕の好きな馬と出会いました。野球観戦も楽しかったです。そして何と言っても嬉しかったのは、バースデーパーティーでした。僕の誕生日はちょうどホームステイ期間中で、ホストファミリーは、まるで自分の誕生日のように喜び祝ってくれました。

そしていよいよ別れの時が来ました。出会いがあれば別れがあるとはいいますが、今回のホストファミリーとの出会いは、今までで1番いい出会いで、1番悲しい別れでした。とても悲しかったけど、心配をかけたくなかったから、涙はこらえました。今回のホームステイは、たくさんの経験をし、さまざまなことを学んだ最高の旅でした。

「自分の国をもっと大事に」 工藤 美結

日本とアメリカの習慣の違いを意識して過ごしてみると、たくさん発見するものがありました。食事、あいさつ、お風呂…。その中でも、家族が一緒にいる時間を大切にすることはとても素晴らしいことだと感じました。日本の食事は何品も出てくるのに対し、アメリカは一品料理をみんなで食べるので少しおどろきました。



ホームステイ中も、帰国してから也是如此ですが、もっと自分の国を大事にしようと思いました。ふだん何気なく食べている物も、お風呂も、明るい蛍光灯も、アメリカへ行ったらはじめて大切さがわかりました。

ホームステイで学んだことを忘れずに、いいことは生かしてこれからを過ごしていきたいです。

「最高!カヤック体験」

小山 文介



僕はアメリカにホームステイをしました。13日間と長い日程でしたが、とても楽しかったです。1番楽しかったことは、カヤック体験です。僕のペアはアメリカで出会ったフランクでした。さすがアメリカ人、ハイテンションで体力がありました。貴重な鳥などいろんなことがカヤック体験を通じて知ることができたので良かったです。

ニューヨークも良かったです。ニューヨークはテレビなどでよく見ますが、テレビより何倍もキレイで良かったです。

ほかに、たくさんいい思い出がありますが、この2つが特に思い出に残っています。また機会があったら行きたいと思います。

バス市訪問を終えて

団員は、文化の違う国でかけがえのない友を得、異国に身を寄せることで自分たちの文化を見直しました。国際的な視野を広げ、いくつもの宝を胸に大きく成長した彼らの声を紹介します。

「当たり前のおかげたさ」 杉野森 慎子

とにかく楽しかった。ものすごく楽しくてあっという間の13日間でした。やはり英語ばかりの世界で会話ができたとき、自分の話を相手に理解された時、すごく嬉しく感激しました。

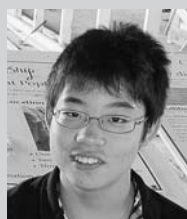


3日目までは英語を聞き取ることと悩まされましたが、24時間英語の世界で生活していると、3日目からは英語を聞き取れるようになり、文法はめっちゃくちゃで単語を並べるばかりの会話ですが、会話を楽しめるまでになりました。

今まで当たり前だと思っていたことが恵まれているのだと気づくことも多々ありました。日本人を理解し、アメリカ人を理解することで、互いに理解し、互いに団結することができたと思います。機会があったら、また参加したいと思います。

「IT'S GREAT!」

高橋 拓巳



ホストファミリーと過ごした中で特に思い出となったのはホストマザーとのピザ作り。チーズは3種類あるうえに、乗せ方が豪快だった。家で育てている何かの葉っぱを摘んで、それもピザの生地に乗せた。でかいオーブンに入れて焼き上がったピザを食べると売っているピザよりもおいしかった。

ホストファミリーは僕の英語力をカバーしてくれるようにジェスチャーを交えてコミュニケーションをしてくれ、あたたかい人たちだった。

このホームステイをしてみて、見るもの、聞くものすべてがめずらしく、アメリカの心も体も建物も、すべてが大きいことを知った。これから、その大きさをプラスにしていきたいと思う。そして、帰国して何より感じたのは、条件なしに受け入れてくれる自分の町の良さだ。特に文化的に珍しいものがあるとか、昔からの伝統があるとかと関係なく、自分がほっとできる場所、それがふるさとであるということ強く感じた。

白老町との相互訪問交流

いざ 白老町へ

姉妹都市の北海道白老町の自然、文化、歴史に触れる「白老歴史にふれる旅」に市内の小学5年生43人が8月1日～3日と8日～10日の日程で参加し、姉妹都市について見聞を広めてきました。

白老町との交流は、白老町が白老村だった大正末期から昭和初期にかけて第3代白老村長を務めた平田源三郎氏が旧森田村出身で白老町発展のために尽力したことがきっかけとなり姉妹都市提携が実現しました。児童たちは、仙台藩元陣屋跡で歴史を学んだり、アイヌ民族博物館（ポロトコタン）でさまざまなアイヌ文化を体験したり、白老町の児童とパークゴルフで交流を深めました。



アイヌ民族博物館で記念撮影



自作ムックリ（口琴）を演奏



白老町の歴史を学ぶ



鮭づくしのアイヌ料理を味わう



パークゴルフに挑戦

ようこそ つがる市へ

7月27日から29日まで白老町の5、6年生の児童9人と引率2人がつがる市を訪問しました。一行は、28日に福島市長を表敬訪問。日本最古のりんごの木や縄文居住展示資料館を見学し、つがる市の歴史や文化に触れました。また、森田小学校の児童と一緒にマグアビーチでの海水浴や地球村でのバーベキューを楽しみ、お互いに交流を深めました。



つがる市に訪れた白老町からの訪問団



地球村でバーベキューを満喫



マグアビーチでスイカ割りに挑戦